

## ◆技術改良試験（重点普及課題）

### オキナワモズク培養技術の普及（八重山地区）

八重山支庁農林水産整備課 中村勇次

#### 1. 目的

八重山地区においては、モズク養殖が始まって日が浅いことや天然母藻が確保しやすい環境にあることから未だ培養種が普及していない。母藻を使用する場合、天然母藻の有無により採苗時期が左右されるため、安定的な採苗を行うことができる培養種を普及させる必要がある。

#### 2. 材料及び方法

石垣市種苗施設の一角に設けたモズク培養室を拠点にモズクの培養作業を行った。前担当の大城普及員より引き継いだオキナワモズク株14株と水産海洋研究センターから提供を受けた1株（沖縄本島玉城産）の計15株を石垣市種苗施設で拡大培養した。

その後、モズク生産部会員から石垣島産の株が欲しいとの要望があった事から、追加で石垣島産の2株を拡大培養した。

#### 3. 結果及び考察

拡大に伴い、雑藻の混入が見られた事から、雑藻の混入のない4株を拡大培養し、8月11日にモズク養殖生産部会の13グループに100mlずつ（水研センター株のみ500ml）配布した。4株は、本部産2株、伊是名産1株、水研センター提供1株（玉城産）であった。

その後、8月29日に石垣島産の2株を同じく13グループに200mlずつ配布した。

#### 4. 今後の課題

今期採苗した石垣島産のオキナワモズクは、寒天分離中で配布に間に合わなかった。

漁業者の要望があることから、今後石垣産を中心に培養を進めていきたい。

拡大培養を行った株から緑藻の繁茂により廃棄する株が発生したが、雑藻混入の経路を特定して混入防止を図る必要がある。昨年エアコンプレッサーを室内に配置したことから、雑藻の混入は外部からの出入りによるものと考えられる。市の種苗施設は、不特定多数の出入りがある施設なので、衛生管理についても周知する必要がある。



13グループ毎に配布した培養種



石垣市種苗施設内のモズク培養室